

**令和2年度第1回
竹田市地方創生TOP推進会議
金融アドバイザー合同検証会議**

2020.8.24 (月) 13:30~15:30

竹田市役所 3階会議室



議題2 竹田市の課題に対する意見交換

【テーマ】

10代～40代の女性の転出超過を乗り越えるために

竹田市に必要なこと・できること

～「まち・ひと・しごと・くらし」の視点から～



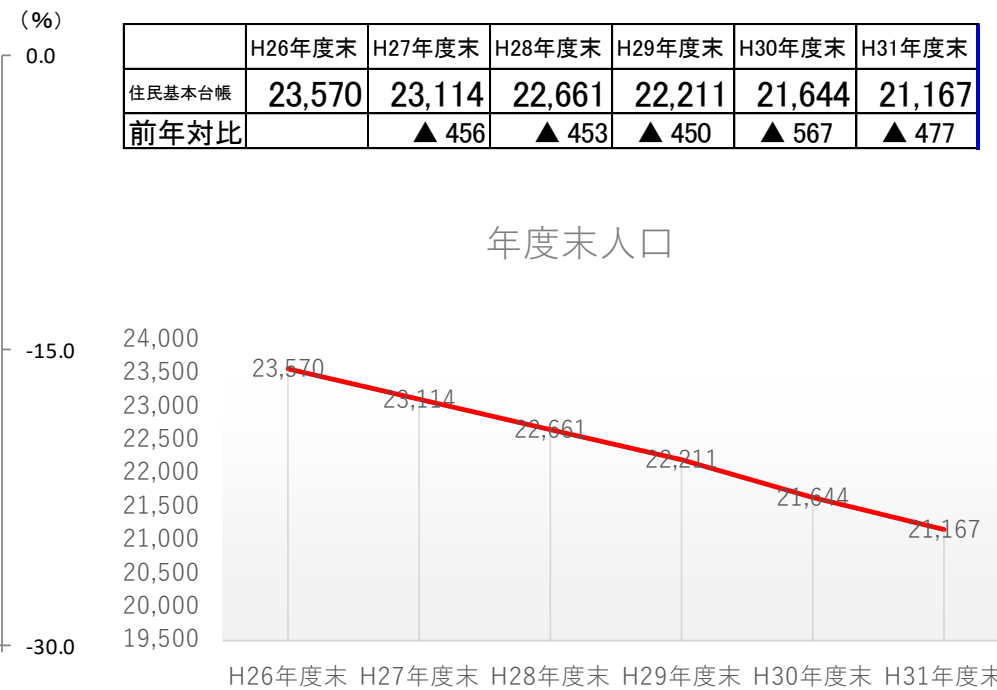
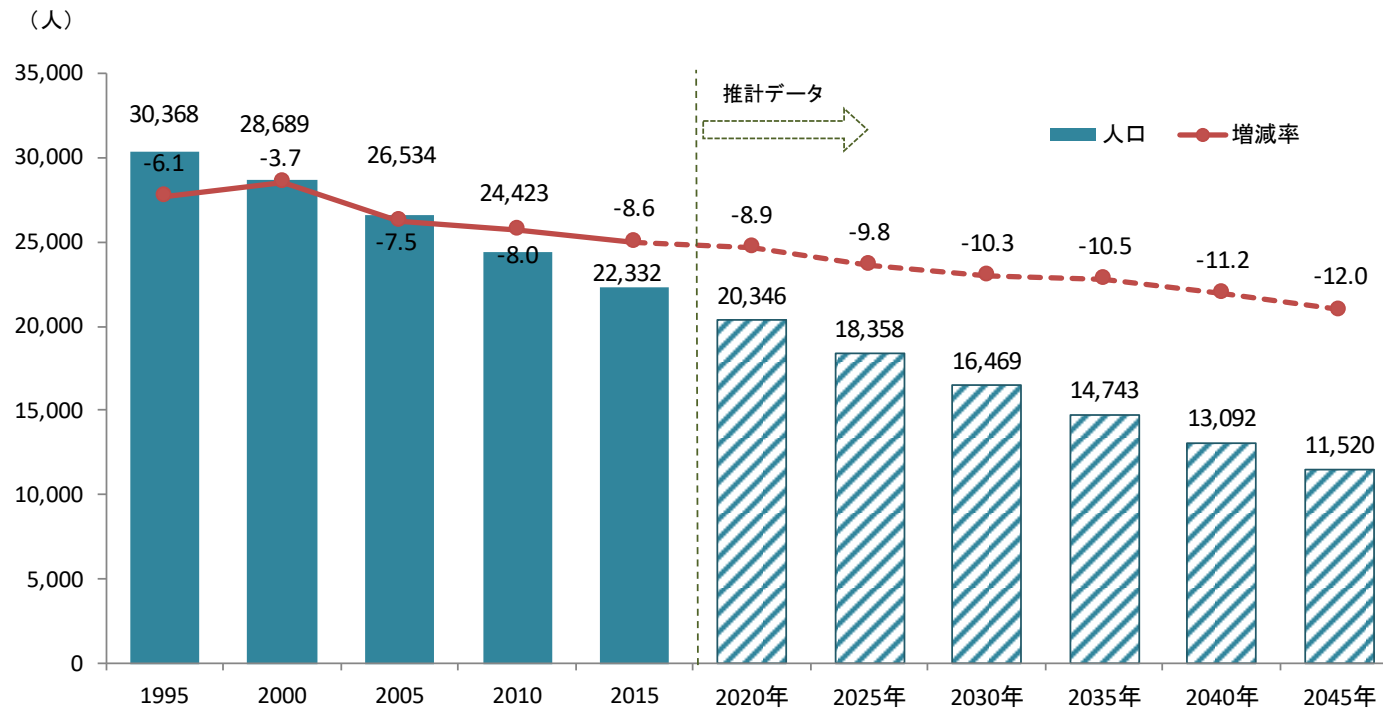
課題提起

第2期竹田市地方創生TOP総合戦略
第2期竹田市人口ビジョン
概要説明



人口の推移

- 2025年には20,000人を割り込み、25年後の2045年には11,520人になる見込み
- 第1期策定時より下げ幅が拡大 2015年 予想22,384/実数22,332人 ▲52人
⇒人口減少のスピードは速まる懸念



資料) 総務省「国勢調査」
2020年以降の推計データは国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

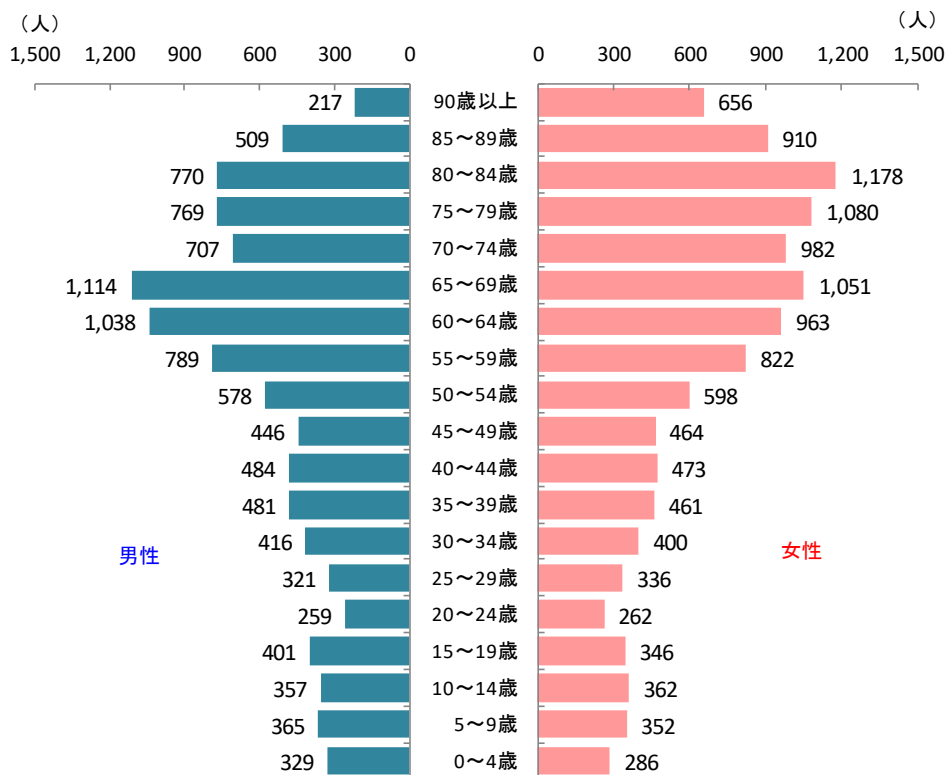
— 住民基本台帳



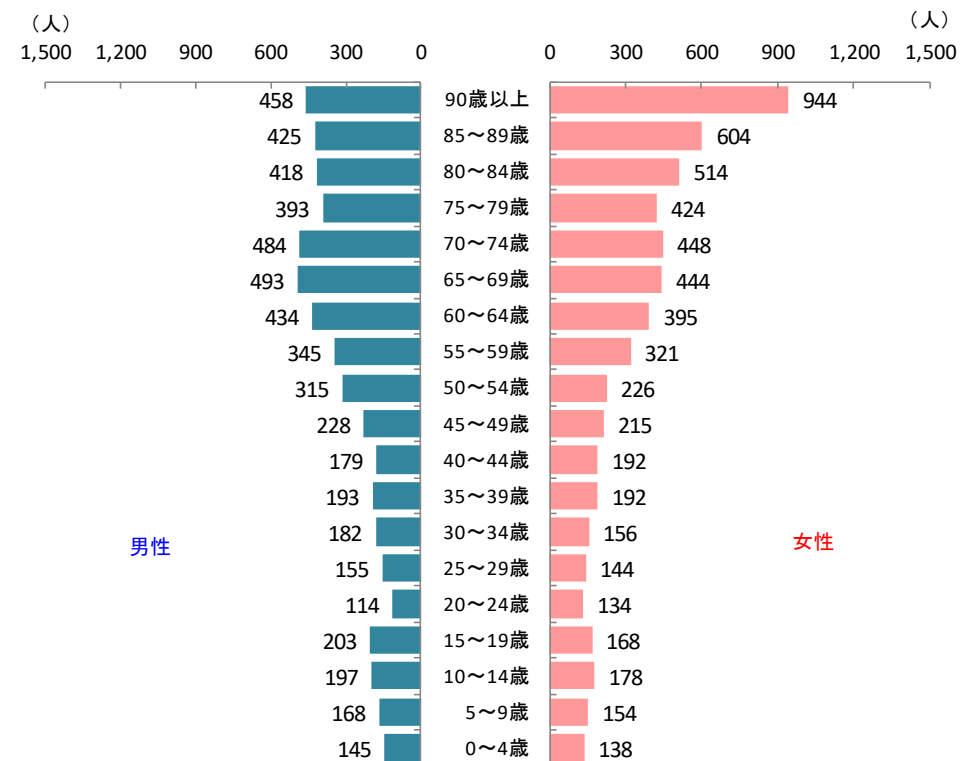
人口の推移 (人口ピラミッド)

- H17年の合併当初 つぼ型 から、現在は花瓶型へ
- 2045年には、80歳以上の女性が多くなる
もっとも人口が多い層は「90代女性 (現在65~70歳)」

図表 2人口ピラミッド (2015年)



図表 3人口ピラミッド (2045年)



注) 年齢不詳は90歳以上に加える
資料) 総務省「国勢調査」

資料) 国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別 将来推計人口」

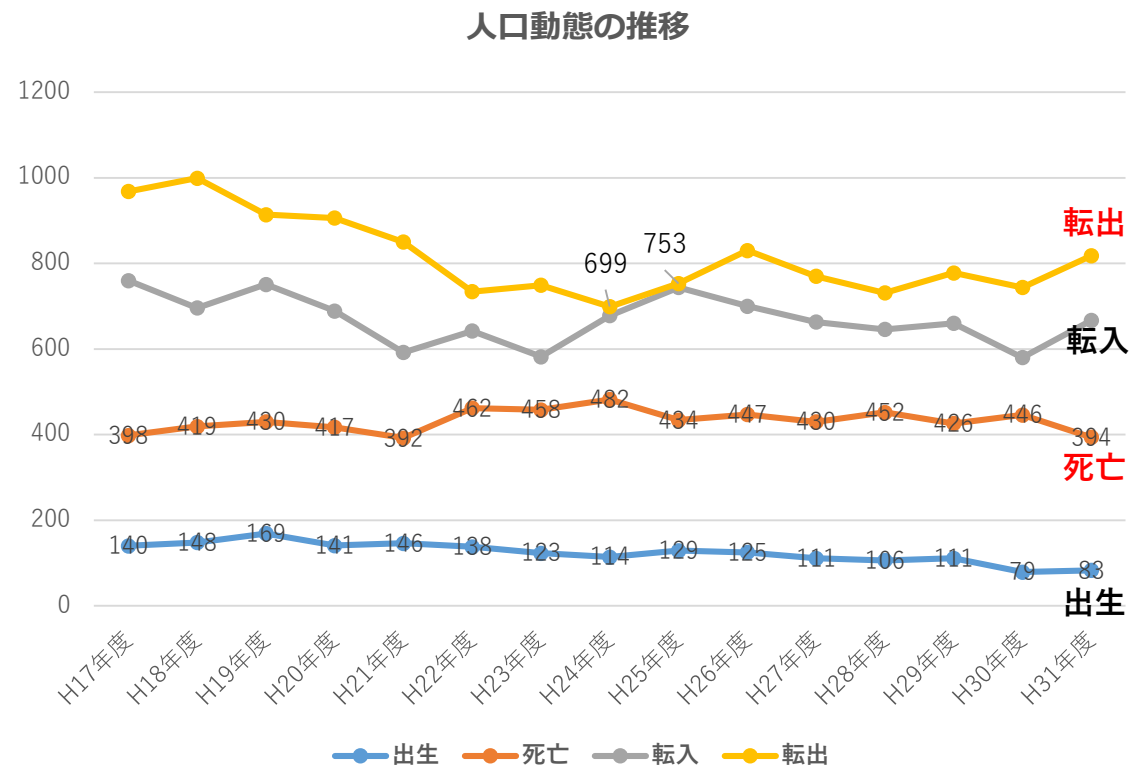
人口動態の推移

- 自然動態は毎年300人台で減少し続けている
- 出生数は平成30年度から、ついに100人を割り込む（後述）
- 移住政策を積極的に開始した平成22年を境に社会動態には改善がみられる
Before ▲230人 / After ▲104人
- しかしながら、年100人以上の規模で「転出超過」が続いている

西暦	年度	自然動態			社会動態			合計
		出生	死亡	増減	転入	転出	増減	
2005	H17年度	140	398	▲ 258	760	968	▲ 208	▲ 466
2006	H18年度	148	419	▲ 271	696	999	▲ 303	▲ 574
2007	H19年度	169	430	▲ 261	751	914	▲ 163	▲ 424
2008	H20年度	141	417	▲ 276	689	906	▲ 217	▲ 493
2009	H21年度	146	392	▲ 246	592	850	▲ 258	▲ 504
2010	H22年度	138	462	▲ 324	642	734	▲ 92	▲ 416
2011	H23年度	123	458	▲ 335	582	749	▲ 167	▲ 502
2012	H24年度	114	482	▲ 368	678	699	▲ 21	▲ 389
2013	H25年度	129	434	▲ 305	744	753	▲ 9	▲ 314
2014	H26年度	125	447	▲ 322	700	830	▲ 130	▲ 452
2015	H27年度	111	430	▲ 319	663	770	▲ 107	▲ 426
2016	H28年度	106	452	▲ 346	646	731	▲ 85	▲ 431
2017	H29年度	111	426	▲ 315	660	778	▲ 118	▲ 433
2018	H30年度	79	446	▲ 367	580	744	▲ 164	▲ 531
2019	H31年度	83	394	▲ 311	667	818	▲ 151	▲ 462

農村回帰宣言による移住政策スタート

H17～21平均	149	411	▲ 262	698	927	▲ 230
H22～31平均	112	443	▲ 331	656	761	▲ 104



■ 年齢階級別人口移動

■ 男性

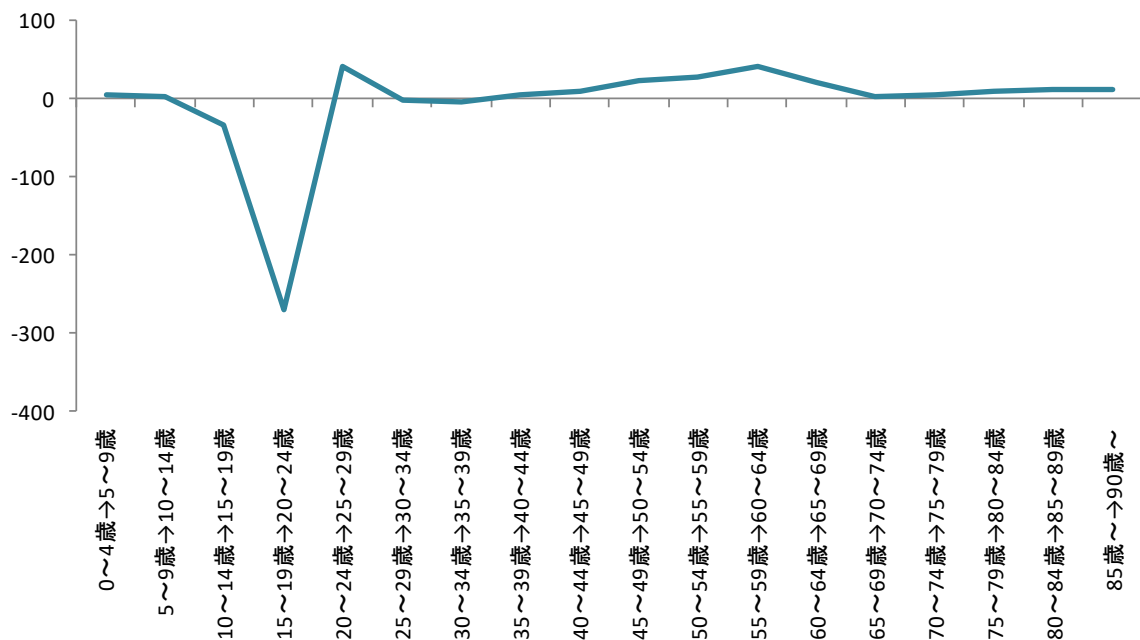
「15～19歳→20～24歳」の年齢層で市外へ進学や就職が要因とみられる大幅な転出超過が起きるが、その後はUJIターンや定年後のUターンなど小ぶりの転入超過

■ 女性

若年層の期間で転出超過、その後も「戻りがない」

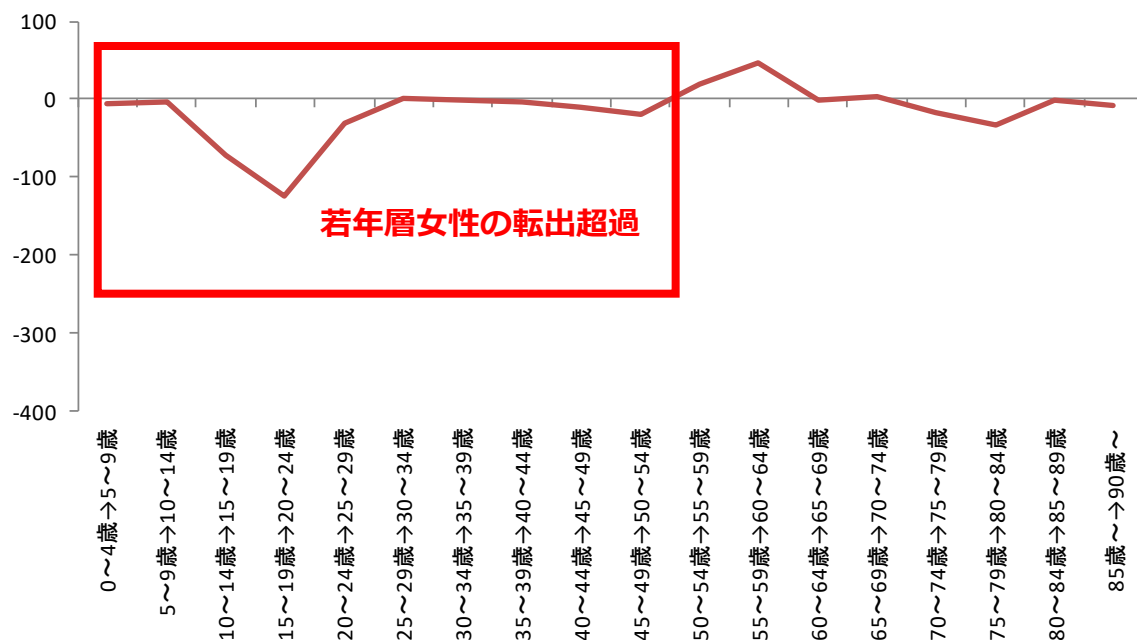
10～40歳代の出産・子育て期における転出超過は将来の人口減少に拍車をかける

図表 16 年齢階級別人口移動 男性 (2010→2015)



資料) 総務省「国勢調査」

図表 15 年齢階級別人口移動 女性 (2010→2015)



資料) 総務省「国勢調査」



どのタイミングで女性が減るのか

(参考) 人口ビジョン未掲載

生まれ年	年齢	2008年度	2013年度		2018年度		
		実数	実数	対2008比率	実数	対2013比率	対2008比率
H16-20生	10-14	433	404		352		
H11-15生	15-19	478	423	97.7%	384	95.0%	
H6-10生	20-24	547	356	74.5%	297	70.2%	68.6%
H1-5生	25-29	467	423	77.3%	227	63.8%	47.5%
S59-63生	30-34	495	437	93.6%	376	88.9%	68.7%
S54-58生	35-39	471	473	95.6%	416	95.2%	89.1%
S49-53生	40-44	523	480	101.9%	458	96.8%	92.5%
S44-48生	45-49	682	512	97.9%	472	98.3%	100.2%

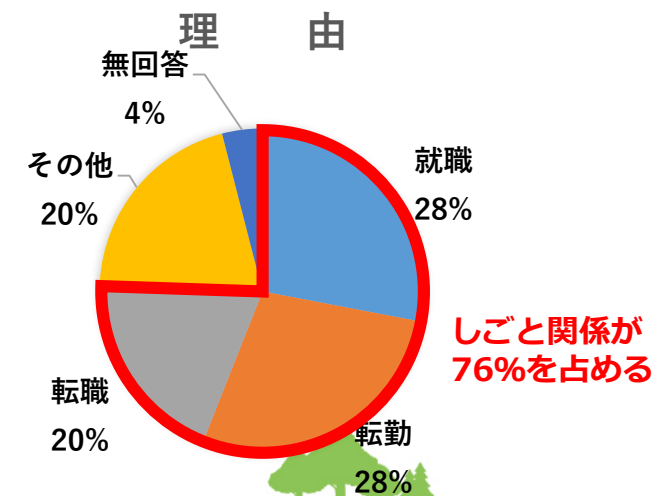
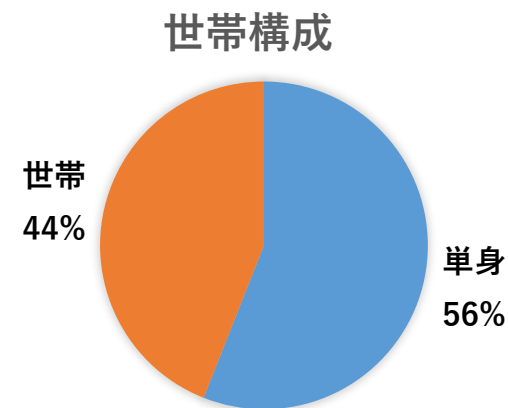
2018年時点で25-29歳の女性の移動の状況

- 【15-19歳】 から 【20-24歳】 になる段階で70～75%程度に減る (高卒後の進学等)
- 【20-24歳】 から 【25-29歳】 になる段階でさらに63%程度に減る。(就業・転職・結婚等)

高校を卒業するあたりから10年間のうちに47.5%程度減る

転入転出される方へのアンケート

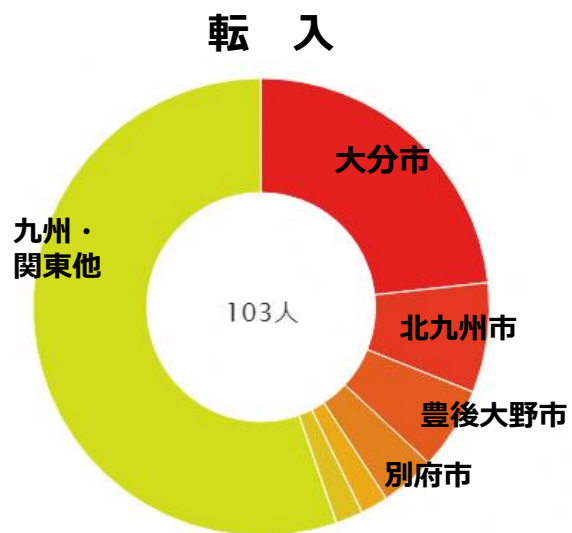
※20代女性 転出者25名



女性の主な転出先

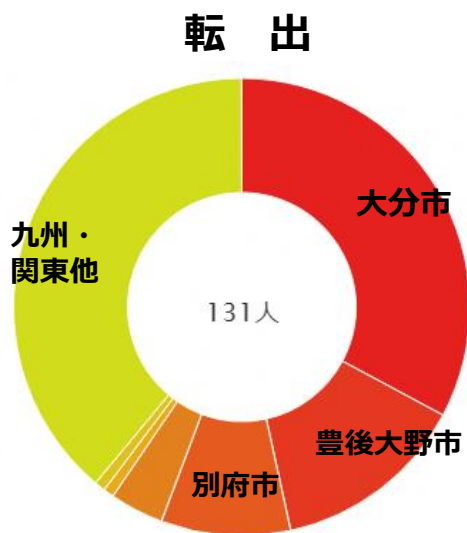
男女総数) 県外では転入出ともに九州・関東(福岡・熊本・東京)

主な転出超過先は、隣接する大分市・豊後大野市 意外と近場に流出している

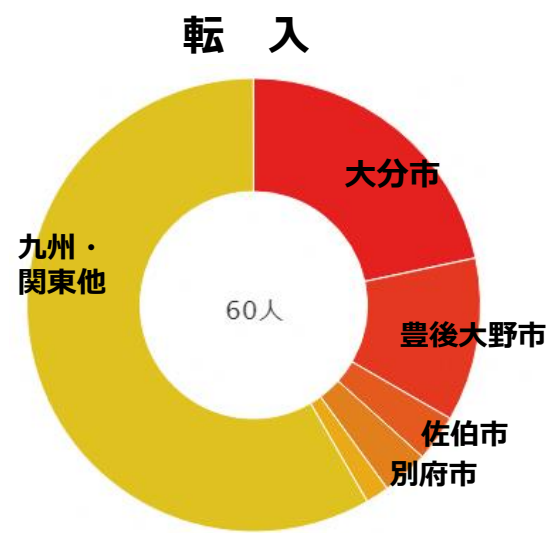


- 1位 大分県大分市 24人 (23.30%)
- 2位 福岡県北九州市門司区 8人 (7.77%)
- 3位 大分県豊後大野市 6人 (5.83%)
- 4位 大分県別府市 4人 (3.88%)
- 5位 大分県由布市 2人 (1.94%)
- 5位 大分県佐伯市 2人 (1.94%)
- 7位 その他 57人 (55.34%)

女性 20歳代

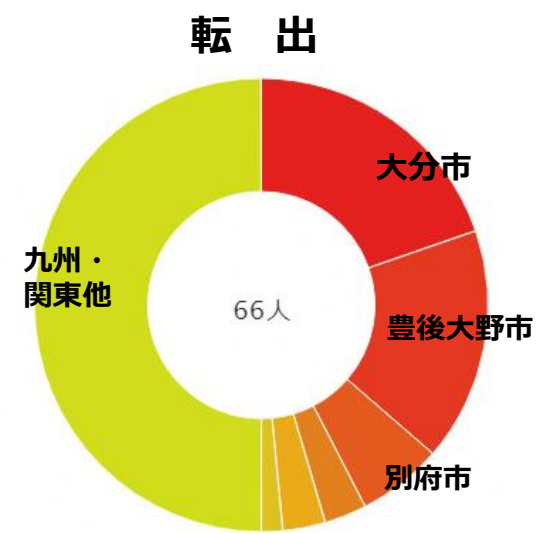


- 1位 大分県大分市 43人 (32.82%)
- 2位 大分県豊後大野市 18人 (13.74%)
- 3位 大分県別府市 12人 (9.16%)
- 4位 大分県由布市 5人 (3.82%)
- 5位 大分県佐伯市 1人 (0.76%)
- 5位 熊本県阿蘇市 1人 (0.76%)
- 7位 その他 51人 (38.93%)



- 1位 大分県大分市 13人 (21.67%)
- 2位 大分県豊後大野市 7人 (11.67%)
- 3位 大分県佐伯市 2人 (3.33%)
- 3位 大分県別府市 2人 (3.33%)
- 5位 大分県由布市 1人 (1.67%)
- 6位 その他 35人 (58.33%)

女性 30歳代



- 1位 大分県大分市 13人 (19.70%)
- 2位 大分県豊後大野市 11人 (16.67%)
- 3位 大分県別府市 4人 (6.06%)
- 4位 大分県由布市 2人 (3.03%)
- 4位 大分県佐伯市 2人 (3.03%)
- 6位 熊本県熊本市中央区 1人 (1.52%)
- 7位 その他 33人 (50.00%)

主な転出超過(28人)先

- **大分市** 19人 (転出43-転入24)
- **豊後大野市** 12人 (転出18-転入6)
- **別府市** 8人 (転出12-転入4)
- **熊本市** 3人 (転出-転入)

主な転出超過(6人)先

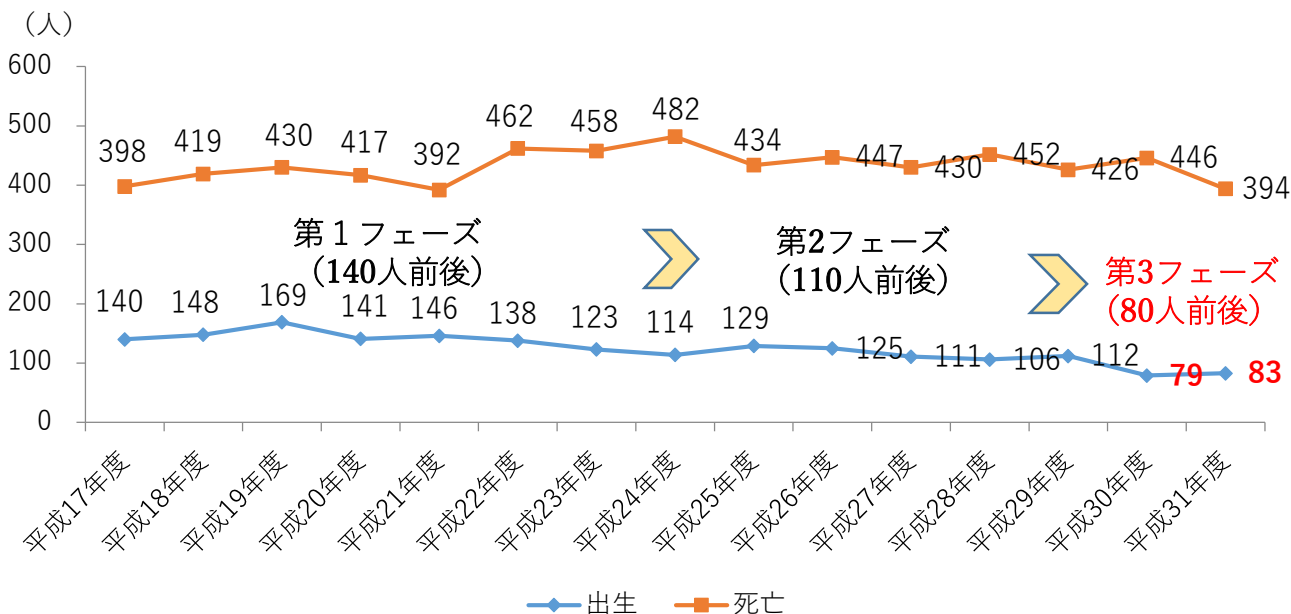
- **豊後大野市** 4人 (転出11-転入7)
- **別府市** 2人 (転出4-転入2)
- **由布市** 1人 (転出2-転入1)



出生数と若い女性の減少

(参考) 人口ビジョン未掲載

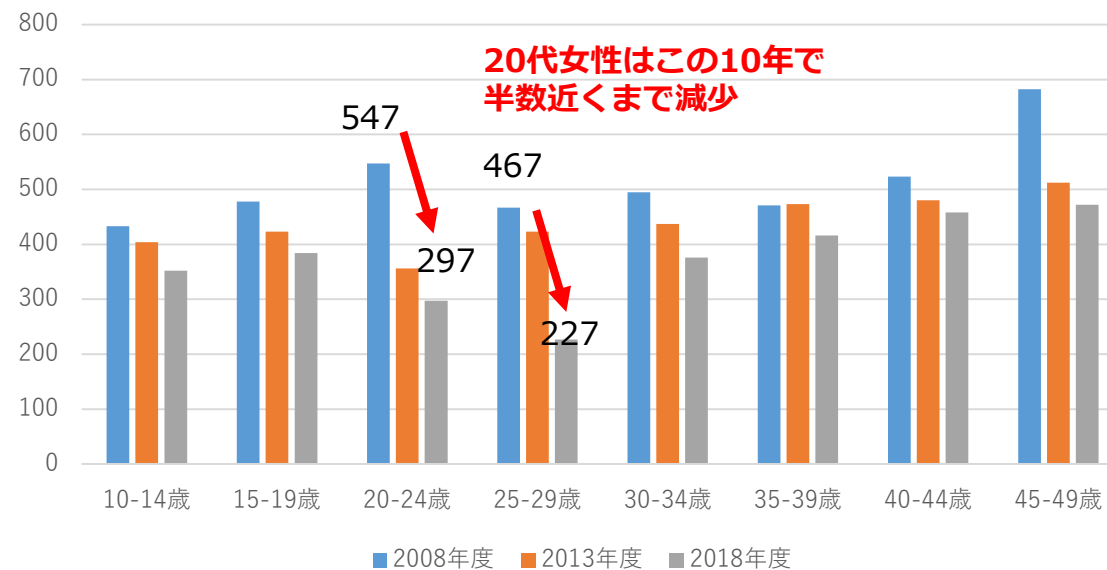
- 平成30年出生数は**79名**で、**前年比70%まで減少**。
- 出生数の減少パターンは5年スパンで約30人ずつ減っていく傾向



資料) 竹田市「住民基本台帳」

- 若い女性、特に**20代の女性はこの10年間で半数近く減少**

女性人口の推移



各年度3月末時点 住基より

参考) 出産年齢の状況

- ① 初回妊娠は20代の妊娠が6割前後を占めており、特に多いのは20代後半。
- ② 20代後半に第1子を産んだ人が、20代後半～30代で第2子、第3子を産むケースが中心

第1子を妊娠する20代女性の絶対数が減少していることが、その後の出生数の減少に大きく影響している

人口減少をゆるやかにし、
世代別人口バランスを改善し、
持続可能な地域社会を実現していく竹田市の地方創生には、

10代～40代の女性の転出超過対策が必須

転出を食い止める施策 / 転入を呼び込む施策



■竹田市に必要なこと・できること

まち

まちの魅力

集落のありかた

情報・交通・環境

ひと

安心が保証された
出産・子育て支援の
継続と充実

しごと

安定した生業

魅力的なしごと創出

雇用と人のマッチング

生産性の向上

くらし

住環境の改善
(空き家・借家・新築)

教育環境の魅力化

For example...

具体的にどんなことが必要で
どんな風に関われると思いますか

